



ガソリンへの支出

— 家計調査（二人以上の世帯）結果より —

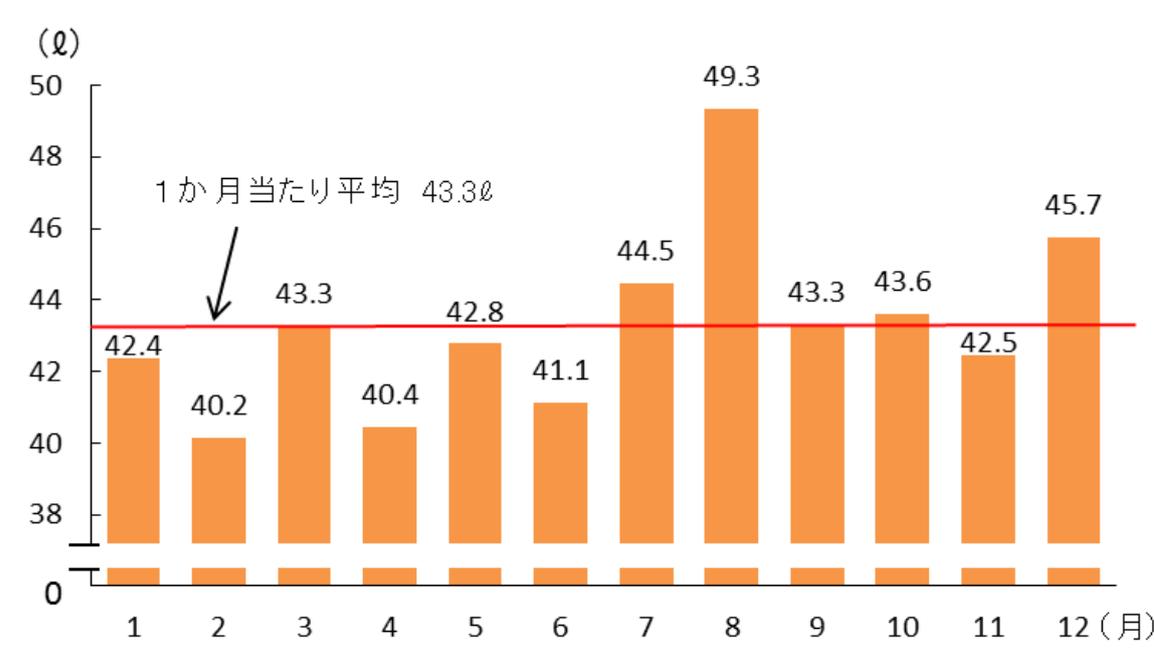


お盆の時期になると、帰省ラッシュなどで高速道路が大渋滞している様子がよく報道されますが、皆さんのご家庭でも、この夏に自動車で出かけられた方、あるいはこれから出かける予定の方が多いのではないのでしょうか。自動車での移動に欠かせないのがガソリン。そこで、今月はガソリンへの支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

8月はガソリンの購入量が最も多い

1世帯当たりのガソリンの購入量を月別（平成22～24年平均）に見てみると、やはり夏休みやお盆の帰省などで自動車を利用する機会が増える8月に最も多く購入されています。また、年末の帰省などで同じように自動車での移動機会が増える12月も、8月に次いで2番目に多くなっています（図1）。

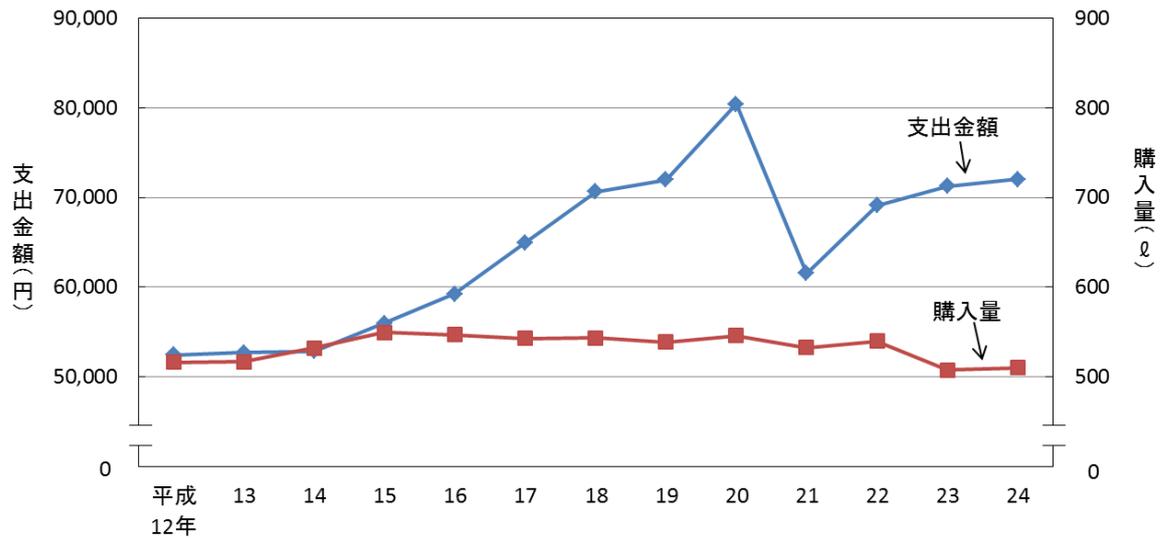
図1 ガソリンの月別購入量（平成22～24年平均）



ガソリンの価格が高騰した平成 20 年の年間支出金額は 8 万円

1 世帯当たりの年間購入量の推移について見てみると、平成15年から22年までは540ℓ前後となっており大きな変化は見られませんでした。23年は507.6ℓに減少し、24年は510.0ℓとなっています。一方、年間支出金額について見てみると、平成12年には5万2千円でしたが、価格が高騰した20年には8万円（12年の約1.5倍）にまで増加しています。その後、価格の下落に伴い平成21年は減少したものの、直近の24年には7万2千円となっています（図2）。

図2 ガソリンの年間支出金額及び購入量の推移



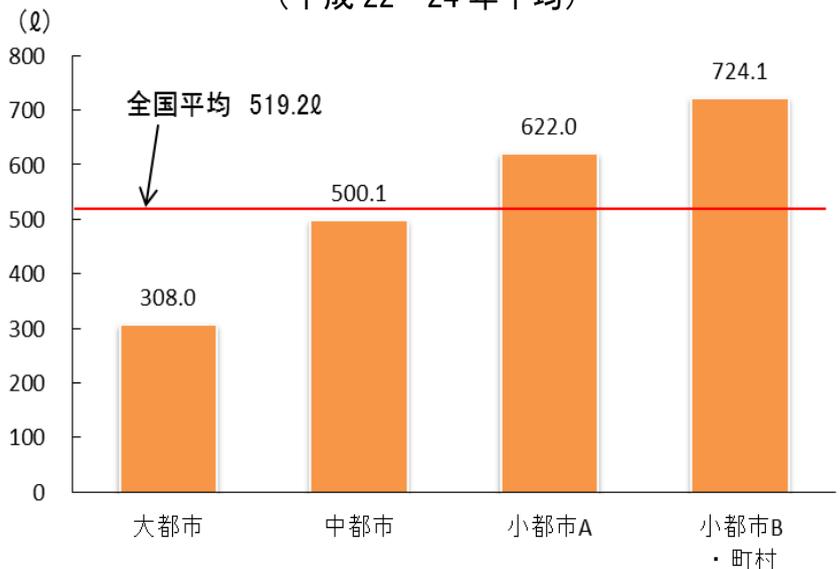
参考：東京都区部の「自動車ガソリン（レギュラー）」の価格（小売物価統計調査より）
平成12年：105円/ℓ 20年：155円/ℓ 21年：120円/ℓ 24年：146円/ℓ

市町村の人口規模が小さいほど多いガソリンの購入量

1 世帯当たりの年間購入量（平成22～24年平均）を都市階級別※に見てみると、市町村の人口規模が小さくなるにつれ、ガソリンの購入量は多くなっています。特に、人口規模の小さい小都市B・町村では724.1ℓと最も多く、大都市（308.0ℓ）の約2.4倍となっています。

これは、大都市では公共交通機関が利用しやすい一方、人口規模の小さい市町村では自動車が必要な交通手段である場合が多いためとみられます（図3）。

図3 ガソリンの都市階級別※年間購入量（平成22～24年平均）



※ 都市階級の分類基準

大都市：政令指定都市^注及び東京都区部

中都市：大都市を除く人口15万人以上の市

小都市A：人口5万人以上15万人未満の市

小都市B・町村：人口5万人未満の市及び町村

注 平成19年4月1日現在において政令指定都市であった市